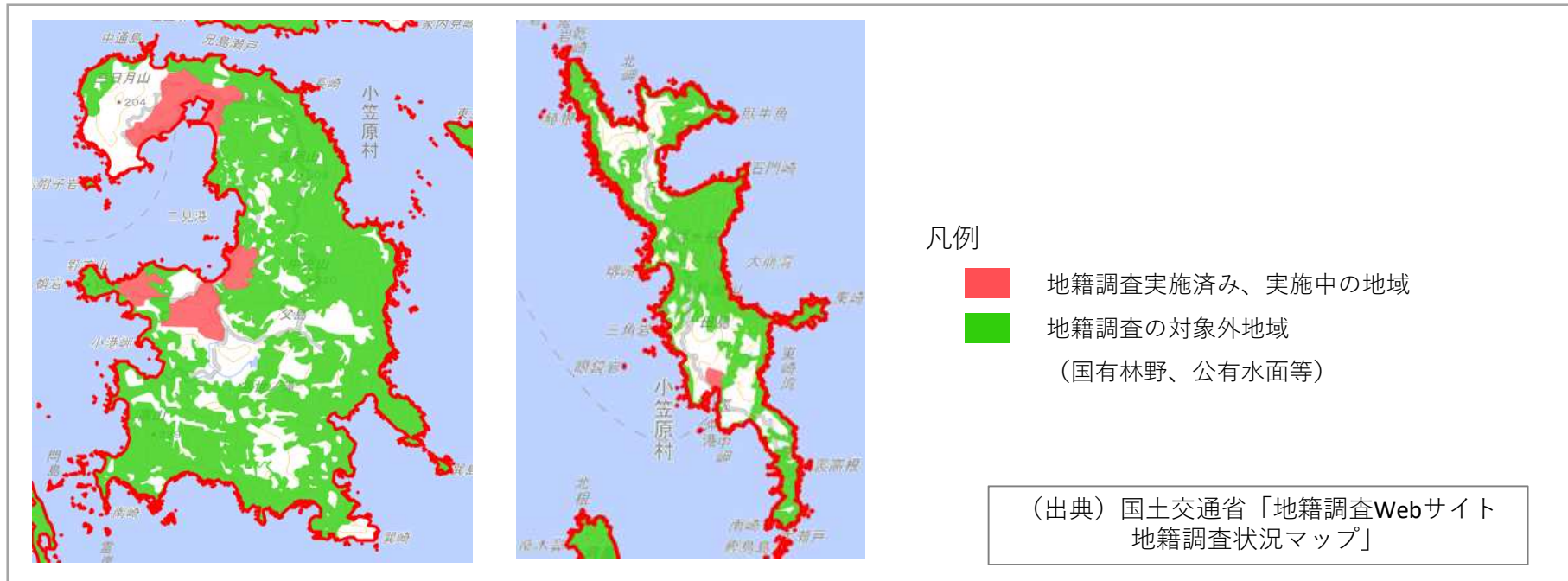


計画に基づく施策の効果と今後の方向性（概要版）

令和 5 年 4 月 4 日
東 京 都

令和元～4年度の主な施策

- ・ 二子・小曲地区（父島）において、地籍調査を実施
- ・ 小笠原村農業委員会において、需給のマッチングを実施



効果

- ・ 二子・小曲地区の地籍調査は約80%完了

今後の方向性

- ・ 農業地域に複数の住宅が建設されている等、実態に合わせた土地利用計画図の更新を検討
- ・ 宅地分譲地として整備可能な箇所を「集落地域」として整理することを検討

令和元～4年度の主な施策

<港湾>

- ・父島二見港の岸壁改良を実施
- ・母島沖港の泊地のしゅんせつを実施

<航路・航空路>

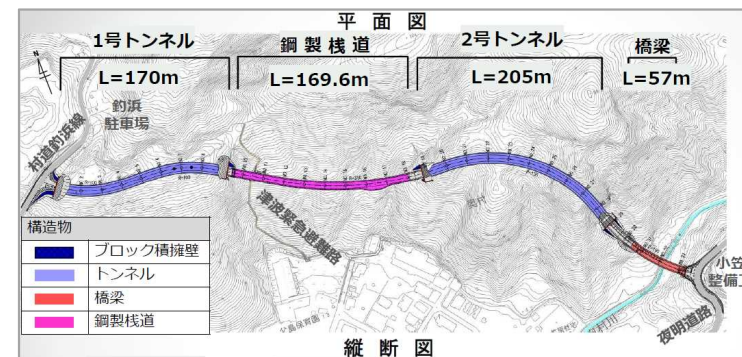
- ・おがさわら丸、ははじま丸のドック期間中の代替船（新さるびあ丸、くろしお丸）の建造費を一部補助
- ・航空路開設に必要な自然環境調査、航空機に関する調査、PIの実施に向けた調査等

<道路・島内交通>

- ・都道の拡幅及び災害防除、村道の補修工事等を実施
- ・父島循環線(行文線)の調査・設計等を実施



新さるびあ丸
(出典) 東海汽船HP



行文線 全体計画図
(出典) 第5回村民説明会資料

効果

<港湾> 施設老朽化の解消、ははじま丸就航への対応

<航路・航空路> 代替船就航により、本土との交通が20日程度遮断される状況が解消

<道路・島内交通> 災害に対する安心及び道路走行時の安全の確保や快適性の向上

今後の方向性

<港湾> 大規模津波等の発生時に備え、緊急輸送用岸壁の整備に着手

<航路・航空路> 航路の安定的な運航の確保、航空路の開設に向けた具体的な検討の実施

<道路・島内交通> 父島循環線（行文線）の橋梁工事、トンネル工事等を実施

情報通信

令和元～4年度の主な施策

- ・小笠原村からフレッツ光サービスに島内のインターネット接続サービスを完全移行
- ・村内の通信事業者の5G化の取組促進のため、情報通信基盤を5G対応可能な環境に更新
- ・交通情報を一元的に提供する「東京宝島うみそら便」の公開

効果

- ・安定した通信サービスの提供
- ・小笠原諸島を往来する利用者の利便性向上

今後の方向性

- ・海底光ファイバーケーブルによる安定した通信サービス提供を継続

物資・流通

令和元～4年度の主な施策

<生活物資輸送費補助>

- ・生活物資について、本土からの海上輸送費を支援

<生産物貨物輸送費補助>

- ・農水産物について、本土への海上輸送費を支援
- ・新型コロナウイルスの感染拡大等に伴う補助率の時限引上げ

効果

島内生活物資の物価安定、島民の生活安定と定住促進に寄与

今後の方向性

引き続き、海上輸送費の支援を実施



令和元～4年度の主な施策

<農業>

- ・かんがい施設の整備や耐風強化型ハウスの有償提供
- ・意欲的な農業者に対する農業団地の活用や資金を支援

<水産業>

- ・二見漁港に防波堤を新設、突堤整備を推進
- ・漁業就業者用の厚生施設の整備、水産センターの無線設備の更新
- ・新規漁業就業者に対する漁船のリースの取組を支援

<商工業>

- ・商工会が実施する経営改善普及事業に対し、補助金により支援
- ・商工会による小笠原ブランド登録商品の審査会の開催を支援



効果

<農業> 農業経営の安定に寄与

(参考) 就農者数 | H27 : 87人 R 2 : 111人

<水産業> 地元漁業者の生活安定、観光産業の拠点利用による産業振興への寄与

(参考) 漁船登録数 | H30 : 62隻 R 3 : 63隻

遊漁船業者登録数 | H30 : 41件 R 3 : 42件

<商工業> ブランド化のため他産業と連携促進、商店間の連携強化

今後の方向性

- ・小笠原特産果樹の栽培技術の開発、普及・栽培指導等により農業経営の向上などを図る。
- ・二見漁港に突堤の新設工事を実施、小笠原ブランドの確立を目指し先進的な取組を支援
- ・商工業者のニーズに対応する講演会や相談会等に対し、必要に応じた支援を検討

令和元～4年度の主な施策

<住宅環境>

- ・父島清瀬アパート及び母島沖村アパート建替えのための実施設計等に着手
- ・令和元年度に決定した持ち家政策に基づき、父島奥村の分譲候補地の取得を推進

<生活環境>

- ・父島第二原水調整池の整備、老朽化した浄水場の更新、配水管新設・更新等
- ・し尿処理場の機械・電気設備の更新、中継ポンプ場の改良工事等



清瀬アパートパース図
(出典) 令和4年父島説明会資料

父島第二原水貯水池
地中内躯体工事



効果

<住宅環境> 父島で75区画、母島で11区画の分譲地を整備・販売し、定住促進に寄与

<生活環境> 新たな水源整備と老朽化対策による安定供給の確保

今後の方向性

<住宅環境> 引き続き、父島清瀬アパート及び母島沖村アパートの整備、分譲地整備を推進

<生活環境> 良質な水の安定供給のため、津波対策や渇水対策等を考慮した計画的な水道施設整備及び維持管理を行っていく

令和元～4年度の主な施策

<保健衛生・福祉>

- ・大学教員や都立精神保健福祉センター医師による研修を実施
- ・老朽化した母島保育園の建替え整備に着手

<医療>

- ・医師、専門医療の確保に対する支援、各診療所の管理運営、医療機材整備等
- ・自衛隊等の協力の下、救急患者搬送体制の維持・確保
- ・画像電送システムを活用した症例検討や各種研修等

効果

<保健衛生・福祉>

- ・安定的な保健活動の継続や島民の健康増進の意識向上、保健師の定着に寄与

<医療>

- ・安定的な医療体制の維持、一定の医療水準の確保

今後の方向性

<保健衛生・福祉>

- ・保健師の確保・定着に向けて、ホームページ等での募集、保健師連絡会や研修会等での最新情報の提供や技術的支援の継続
- ・老朽化した父島保育園の建替えに向けた検討

<医療>

- ・医療機関の支援及び医療従事者の確保の着実な実施、関係機関との連携強化等



令和元～4年度の主な施策

- ・ 外来種対策として、ノヤギやモクマオウ、グリーンアノール等の排除・駆除
- ・ 聳島列島、兄島、弟島における植生回復事業、希少種保全のため鳥類等の調査
- ・ 希少野生動物の保護や愛玩動物の適正飼養を推進し、ペット条例を施行
- ・ 自然ガイドの養成、自然環境のモニタリング等の実施。利用とルールについての調整
- ・ 自然公園、都市公園内の園地・歩道の改修及び施設の整備
- ・ 海岸漂着物の回収・処理



2001年



2019年

植生回復事業



自然ガイド養成

効果

- ・ 自然環境の保全・再生に寄与
（参考） ノヤギの排除捕獲数：1904件（R1～R4計）
アホウドリの繁殖：聳島等で延べ11羽のアホウドリのヒナを確認
飼い猫のマイクロチップ導入率：100%（R3）
- ・ 公園内園路の快適性、安全性の向上、海岸における良好な景観及び環境の保全に寄与

今後の方向性

引き続き、優れた自然景観及び貴重な自然環境、特異な生態系を守るための各種施策を実施するとともに、自然の保護と適正な利用の両立の実現を図る。

再生可能エネルギー源の利用、その他のエネルギーの供給

令和元～4年度の主な施策

- ・プロパンガスやガソリンの輸送費等に対する補助
- ・母島における太陽光発電による電力供給の実証事業に関する協定締結、調査・勉強会の実施
- ・太陽光発電設備等の導入補助、省エネ家電製品の買換えへの補助事業の実施

効果

- ・クリーンエネルギーの供給に寄与
(小笠原世界遺産センターに設置された太陽光発電設備による供給量：230.2kw/年)

今後の方向性

- ・プロパンガスの安定供給に向けた補助の継続
- ・母島再生可能エネルギー100%電力供給実証事業の実施



防災及び国土保全

令和元～4年度の主な施策

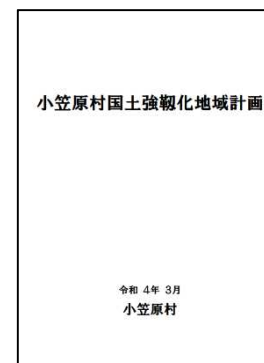
- ・南海トラフ地震防災対策等の取組や支援等について、島しょ町村との連絡会にて情報共有
- ・八ツ瀬川上流三支川における砂防施設の一部整備、小笠原村国土強靱化地域計画の策定

効果

- ・防災力向上に寄与
- ・土砂災害から住民や観光客の生命と財産を守ることに寄与

今後の方向性

- ・新たな被害想定結果等を踏まえた津波避難計画の更新
- ・砂防施設の早期完成



教育・文化

令和元～4年度の主な施策

<教育>

- ・父島の小笠原小中学校の建替えに着手
- ・小中学校・高等学校に指導主事を派遣したほか、教員を対象にした研修等を実施

<文化・スポーツ>

- ・東京都交響楽団によるクラシック音楽の演奏会を開催
- ・小笠原村文化財保護審議会を開催



小中学校
完成イメージ

効果

<教育>

- ・小中学校建替えに伴う施設老朽化・教室不足の解消
- ・教員の資質向上

<文化・スポーツ>

- ・幅広い年代層を対象に鑑賞機会を提供
- ・文化財の適切な保護・活用に寄与

今後の方向性

- ・小中学校の整備
- ・教員が研修を受講しやすい環境整備、オンライン研修の活用、研修内容の更なる充実
- ・芸術文化の鑑賞機会を提供

令和元～4年度の主な施策

- ・今後新たなターゲットとなる外国人旅行者の実態やニーズを調査・分析
- ・定期航路利用の来島者にアンケートを実施・分析のうえ、観光諸団体と共有
- ・エコツーリズムの推進、観光産業の振興を図るため、扇浦浄水場跡地を園地整備
- ・小笠原ファンの情報発信力を活用することを目的としたアンバサダー制度を運用
- ・関係機関による会議を月1回開催して、情報共有、観光施策の連携、各種課題等を検討
- ・「小笠原村産業祭」（ぼにんばざーる）の開催



効果

- ・教育旅行、シニア層の入り込みは、コロナ禍までは増加傾向
- ・外国人観光客については、コロナ禍までは微増傾向

今後の方向性

- ・引き続き、外国人旅行者の実態やニーズを調査・分析
- ・小笠原諸島の関係機関による情報共有、観光施策の連携、各諸課題等を検討

国内及び国外の地域との交流の促進

令和元～4年度の主な施策

- ・教育旅行の誘致活動を実施
- ・八丈町による町民の小笠原親善訪問事業や、南アルプス市との中学生親善交流事業等を通じた友好市町村との交流（R2,R3は中止）

効果

- ・新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、教育旅行は大幅に減少（参考）教育旅行件数 H30：13件 → R3：5件

今後の方向性

- ・引き続き教育旅行の誘致活動等の実施により将来的な交流人口の拡大に努める。



人材の確保及び育成

令和元～4年度の主な施策

- ・亜熱帯農業センター及び営農研修所において、基幹作物に関する講習会を開催
- ・パッションフルーツの品評会等の開催や試験成果の普及等の実施
- ・南島及び母島石門において、東京都版エコツーリズムとして、自然ガイドの養成、自然環境のモニタリング等の実施。登録ガイド制度の運用

効果

- ・人材の確保及び育成、栽培技術水準の向上
- ・自然ガイドの質の向上

今後の方向性

- ・コロナ禍で見送っていた農業者セミナー等の開催
- ・エコツーリズムの実施により、自然の保護と利用の両立を図る。



市民協働

令和元～4年度の主な施策

- ・外来種対策事業等において村民や地元NPOとの協働による取組を実施

今後の方向性

- ・引き続き協働による取組を推進

旧島民の帰島促進

令和元～4年度の主な施策

- ・「小笠原諸島生活再建資金」貸付による特別の金融対策の実施
- ・父島及び母島への集団移転事業に類する措置の実施

効果

- ・旧島民の帰島の促進に寄与

今後の方向性

- ・引き続き金融対策等を実施



パッションフルーツ

小笠原諸島生活再建資金資金の種類

- (1) 農業資金 (農業定着資金、農業経営資金)
- (2) 漁業資金 (漁船等整備資金、養殖施設等整備資金、
漁具等整備資金、漁業経営資金)
- (3) 商工業資金 (商工業設備資金、店舗等整備資金、
商工業経営資金)
- (4) 住宅資金 (住宅及び住宅用地)
- (5) 生活資金 (当座の生計維持)